

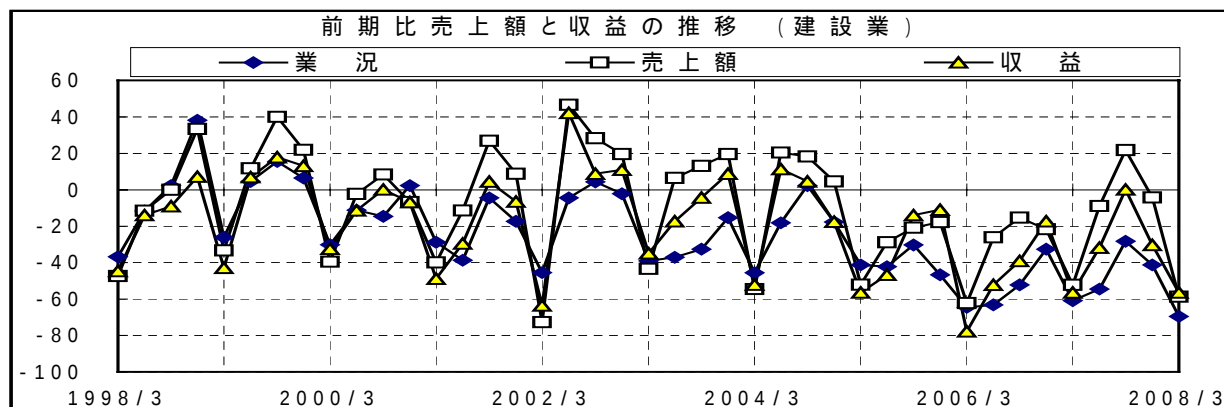
建設業 46 企業（回答率 100.0%）の調査結果です

□ 景 況

DI 値 の推移	7～9 月 期実績	10～12 月 期実績	1～3 月 期実績	4～6 月 期見通し
業 況	-28.3	-41.3	-69.6	-56.5
売上額	21.7	-4.3	-58.7	-8.7
収益	0.1	-30.4	-56.5	-32.5

今期の業況判断 D I 値は 69.6 と、前期の 41.3 からマイナス幅が拡大し 28.3 ポイントの悪化となっています。地区別では様似地区が改善し静内地区が横ばい、それ以外の地区で悪化しています。売上額、収益判断 D I 値は、ともに前期比

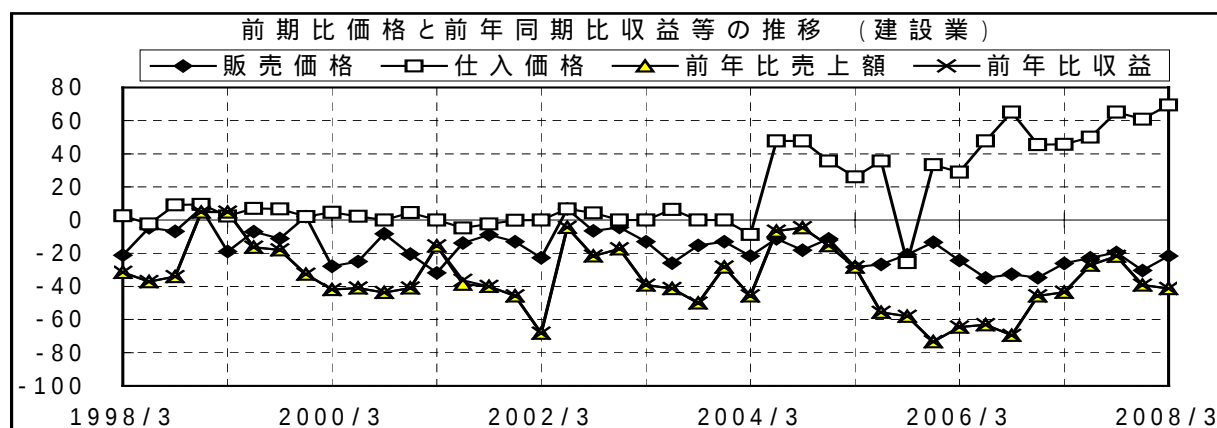
マイナス幅が拡大し、特に売上額判断 D I 値では 54.4 ポイントの大幅な悪化となっています。



□ 価格面の動き・前年同期に比した動き

DI 値 の推移	7～9 月 期実績	10～12 月 期実績	1～3 月 期実績	4～6 月 期見通し
請負価格	-19.5	-30.4	-21.7	-21.8
仕入価格	65.2	60.9	69.5	58.7

請負価格判断 D I 値は 21.7 と、前期比マイナス幅が縮小し価格低下基調を弱め、仕入価格判断 D I 値は 69.5 と、前期比プラス幅が拡大し価格上昇基調が強まっています。



□ 雇用面の動き

DI 値 の推移	7～9 月 期実績	10～12 月 期実績	1～3 月 期実績	4～6 月 期見通し
残業時間	-8.7	-17.4	-23.9	-36.9
人手状況	13.1	10.9	28.3	30.5

残業時間判断 D I 値は 23.9 と、残業時間が減少した企業割合が増加した企業割合を上回り前期比マイナス幅が拡大しています。人手過不足判断 D I 値では 28.3 と、前期比プラス幅が拡大し人手過剰感が強まっています。

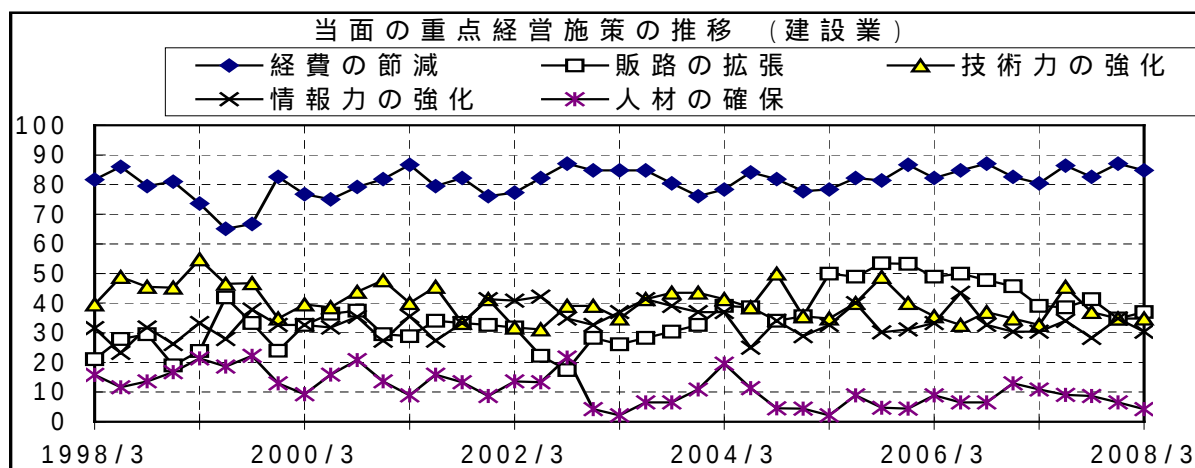
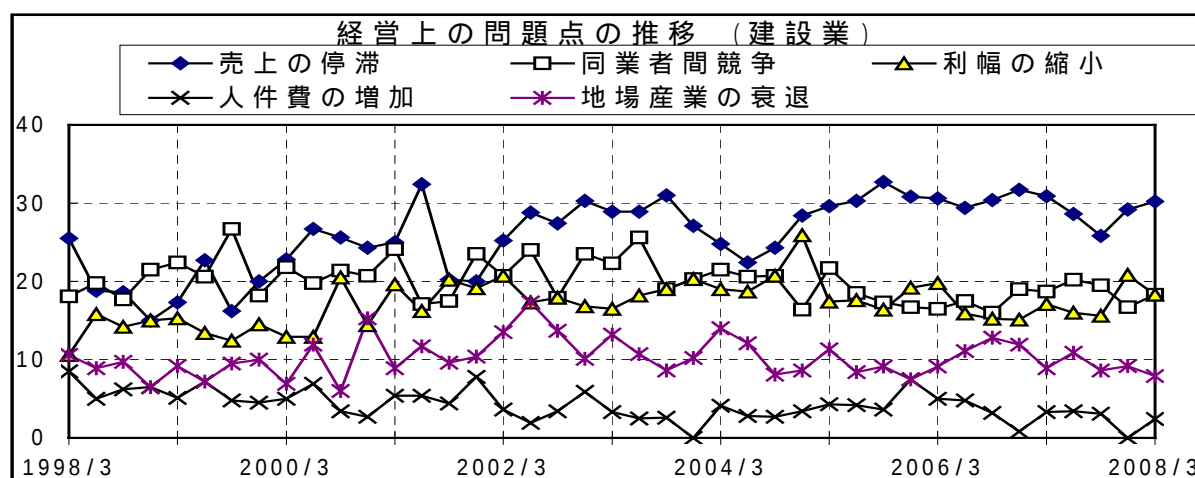
□ 設備投資の動き

設備投資の充足感を示すD I 値は13.0と、前期(4.3)からプラス幅が拡大し過剰感が強まる一方、適正と回答した企業は82.6%と、前期(91.3%)から8.7ポイント低下しています。設備投資実施企業割合は8.7%と、前期(10.9%)比2.2ポイント低下し件数で前期の5社に対し4社の実施となっています。来期予定では当期比横ばいの4社となっています。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上の停滞」をトップに挙げ30.2%、次いで「利幅の縮小」、「同業者間との競争」18.3%、「材料価格の上昇」13.5%の順に続き、前期とさほど大差のない回答割合となっています。業種別では、総合工事業、職別工事業が「売上の停滞」、設備工事業が「材料価格の上昇」をトップに挙げています。

重点経営施策では、「経費の節減」をトップに挙げ84.8%、次いで「販路を広げる」37.0%、「技術力を強化する」34.8%、「情報力の強化」30.4%の順に続いています。業種別では、総合工事業、職別工事業、設備工事業がともに「経費の節減」をトップに挙げています。



□ 来期の見通し

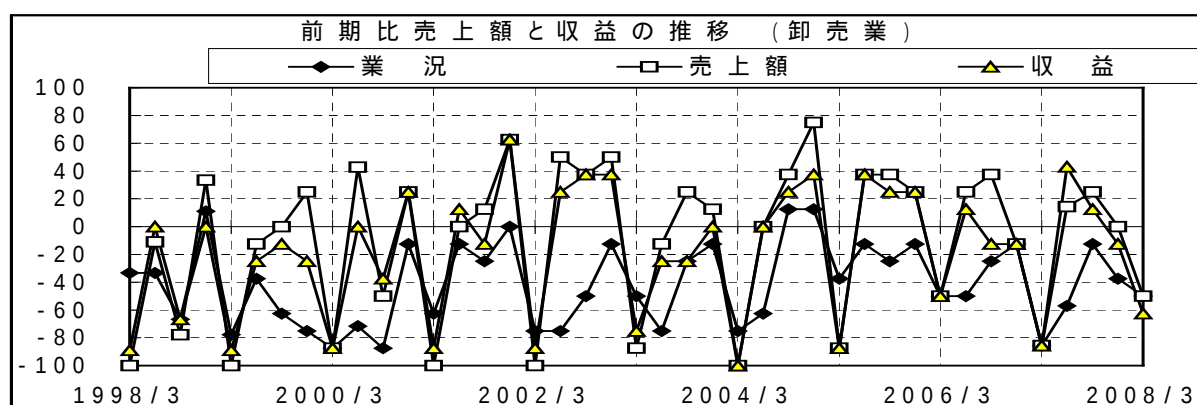
来期(20年4~6月期)の予想業況判断D I 値は 56.5と、今期(69.6)実績比13.1ポイントの改善見通しとなっています。予想売上額、予想収益判断D I 値は、売上額 8.7(今期 58.7)、収益 32.5(今期 56.5)と、ともにマイナス幅が縮小し、特に予想売上額判断D I 値では大幅な改善見通しとなっています。予想請負、予想仕入価格判断D I 値は、請負価格が 21.8(今期 21.7)で極僅かな低下基調、仕入価格は58.7(今期 69.5)で上昇基調が弱まる見通しとなっています。

卸 売 業 8 企 業 (回 答 率 100.0%) の 調 査 結 果 で す

□ 景 況

DI 値 の推移	7～9月 期実績	10～12月 期実績	1～3月 期実績	4～6月 期見通し
業 況	-12.5	-37.5	-50.0	-62.5
売上額	25.0	0.0	-50.0	0.0
収益	12.5	-12.5	-62.5	0.0

今期の業況判断DI値は 50.0 と、前期の 37.5 からマイナス幅が拡大し 12.5 ポイントの悪化となっています。地区別では浦河地区が改善し静内地区が横ばい、それ以外の地区で悪化しています。売上額判断DI値は、前期比ゼロからマイナス水準に低下し、収益判断DI値は、前期比マイナス幅が拡大し、ともに大幅に悪化しています。

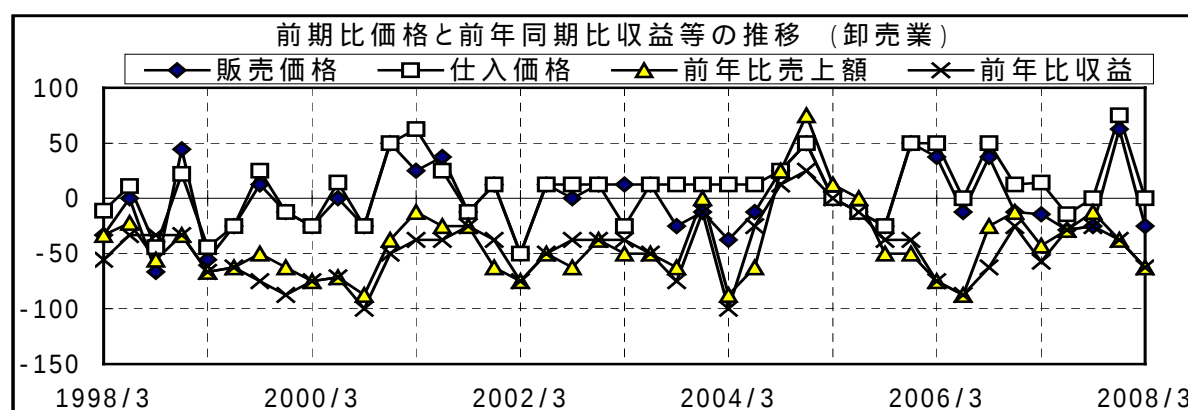


□ 価格面の動き・前年同期に比した動き

DI 値 の推移	7～9月 期実績	10～12月 期実績	1～3月 期実績	4～6月 期見通し
販売価格	-25.0	62.5	-25.0	12.5
仕入価格	0.0	75.0	0.0	37.5

販売価格判断DI値は 25.0 と、前期比プラスからマイナス水準に転じ価格低下基調を強め、仕入価格判断DI値は 0.0 と、前期比プラスから価格上昇基調を弱めゼロ水準となっています。

業種別では、前期比食品、農産・水産物が販売、仕入価格判断DI値とともに低下しています。



□ 雇用面の動き

DI 値 の推移	7～9月 実績	10～12月 期実績	1～3月 期実績	4～6月 期見通し
残業時間	-25.0	0.0	-12.5	-12.5
人手状況	-25.0	-12.5	25.0	0.0

残業時間判断DI値は 12.5 と、残業時間が減少した企業割合が増加した企業割合を上回り、前期比ゼロからマイナス水準に低下しています。人手過不足判断DI値では 25.0 と、前期比マイナスからプラス水準に転じ人手過剰感が強まっています。

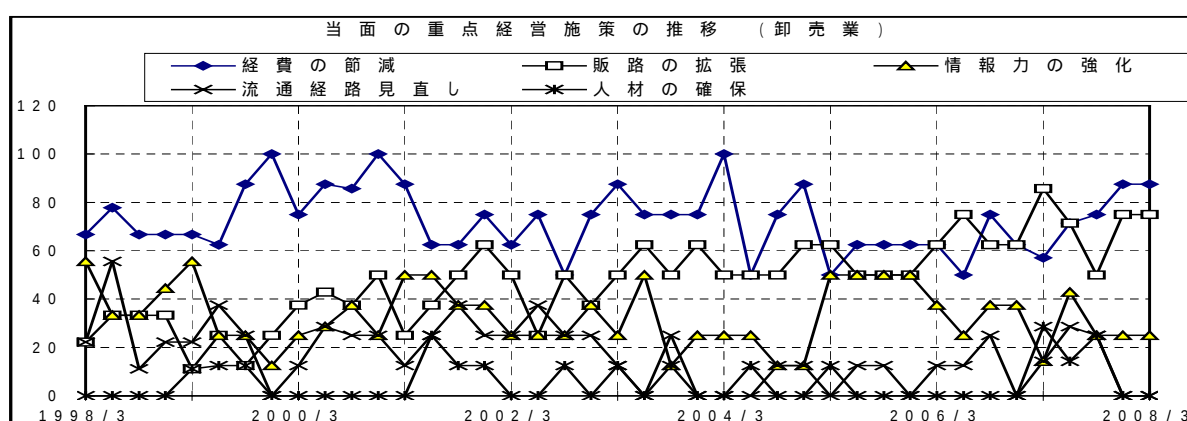
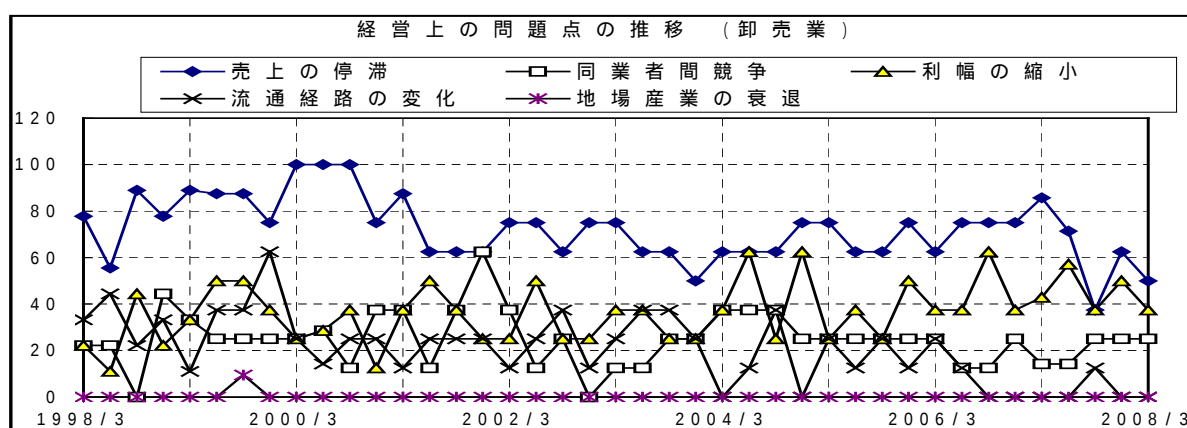
□ 設備投資の動き

設備投資の充足感を示すD I 値は0.0 と、前期(0.0)と変わらず、また、適正と回答した企業も75.0%と、前期と同じ割合になっています。設備投資実施企業割合は12.5%と、前期(50.0%)比37.5ポイント低下し件数で前期の4社に対し1社の実施となっています。来期予定では当期比横ばいの1社となっています。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上の停滞」をトップに挙げ50.0%、次いで「利幅の縮小」、「取引先の減少」37.5%、「同業者間との競争」、「販売商品の不足」、「経費の増加」25.0%の順に続き、前期と比べて「取引先の減少」、「販売商品の不足」、「経費の増加」と回答する企業が多くなっています。業種別では、食品が「売上の停滞」、「取引先の減少」、農産・水産物が「利幅の縮小」、「販売商品の不足」等をトップに挙げています。

重点経営施策では、「経費の節減」をトップに挙げ87.5%、次いで「販路を広げる」75.0%、「情報力の強化」、「品揃えの充実」25.0%の順に続いています。業種別では、食品が「販路を広げる」、農産・水産物が「経費の節減」をトップに挙げています。



□ 来期の見通し

来期(20年4~6月期)の予想業況判断D I 値は62.5と、今期(50.0)実績比12.5ポイントの悪化見通しとなっています。予想売上額、予想収益判断D I 値は、売上額0.0(今期50.0)、収益0.0(今期62.5)と、ともに大幅な改善を見通し、予想販売、予想仕入価格判断D I 値では、販売価格12.5(今期25.0)、仕入価格37.5(今期0.0)と、ともに上昇基調が強まる見通しとなっています。